

『埼玉』（4月21日配信）

こんにちは、戸田です。

今日のテーマは、埼玉の表現方法についてです。

以前、熊本県に行きました。熊本ろう学校の視察のため二日間行きました。私は埼玉県のろう学校の幼稚部で働いています。熊本ろう学校の幼稚部の様子を見るために二日間行きました。

幼稚部の子どもたちと一緒に遊んだり、小・中・高等部の授業の様子を見学したり、中・高等部の生徒と懇談をする機会もあり楽しかったです。

寄宿舍がとても綺麗で、一般的には2人部屋や4人部屋ですが、熊本ろう学校の場合は、個室になっており、小学部の生徒も個室です。身の回りのことは自分で行う自立を養う環境でした。とても充実した視察の中で、小学部の生徒と懇談した時に、誰か聞かれ、戸田です。手話ニュースに出てると伝えたと、知ってるといった反応でした。どこに住んでるか聞かれ、埼玉から来たことを伝えたと、確か小5の男児がこのように表したんです。手話表現の埼玉ではなくこのように表したので笑ってしまいました。これは映画の「翔んで埼玉」のなかで埼玉を表すポーズです。全国的にヒットした作品なので埼玉と聞いてこのポーズが出たのでしょうか。実際、埼玉の意味で通じました。現在の手話で埼玉はこのように表しますが、以前はこういった表現であらわされていました。手話も変わってきて今の埼玉の表現になっています。将来的に、映画の埼玉のポーズに手話表現も変わっていくことがある・・・なんてことはないですね。